

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年5月26日（金）

2 確認箇所

- ・伐採木一時保管エリアT
- ・危険物屋外貯蔵タンク
- ・使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）

3 確認項目

- (1) 伐採木一時保管エリアTの状況
- (2) 危険物屋外貯蔵タンクの状況
- (3) 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）の状況

4 確認結果の概要

(1) 伐採木一時保管エリアTの状況について

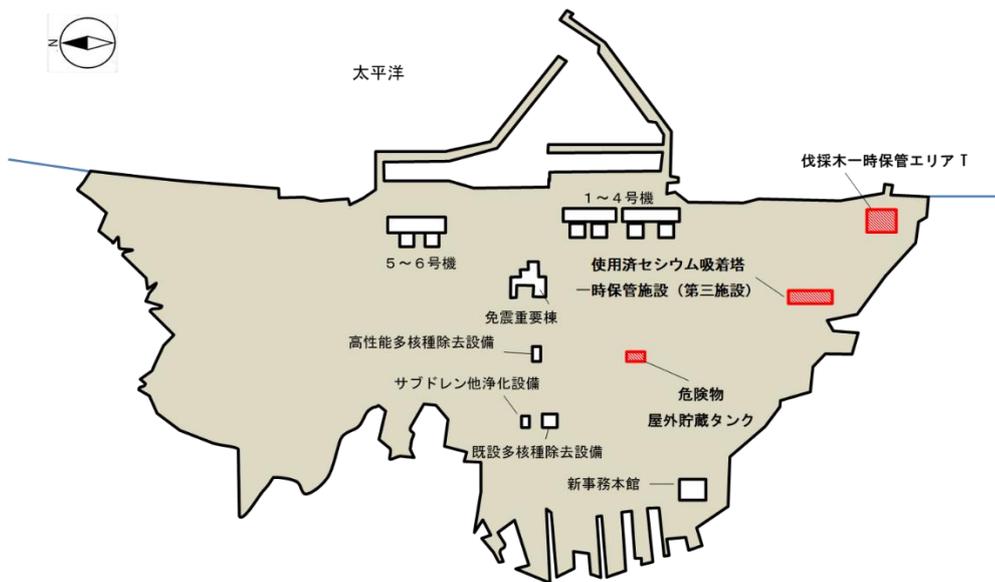
伐採木一時保管エリアTでは、地下にチップ化した伐採木を保管するための保管槽を設置しており、保管槽の上には盛土及びシート掛けがなされている。

当該エリアでは、令和元年10月の台風19号や令和3年7月の台風8号の影響等で西側法面の一部崩落や進入路の亀裂発生などの事象が発生したため、崩落箇所の締固めや法面の各段に雨水を排水するための排水溝が設置され、各排水溝には上段から下段に排水するための溝が設けられる等の崩落防止対策等が行われたことから、対策後の状況について確認した。

(図1) (前回確認：令和4年10月3日)

- ・当該エリア法面に崩落箇所等は確認されず、また進入路法面以外は防草シートが敷設されていた。(写真1)
- ・排水溝に、排水が阻害されるような土砂や枯草等の堆積は見られなかった。(写真2)
- ・保管槽はシートで養生され、槽ごとにガス抜き管や温度計が設置されていた。なお、確認した範囲では、シートの破れ等の異常は見られず、また当該エリア内に雑草の繁茂は見られなかった。(写真3)
- ・保管槽の内部温度を測定している温度計の指示値を確認すると、約16℃～25℃であり、異常な高温を示す槽はなかった。^{※1}(写真4)
- ・また当該エリア入口付近に、消火器格納庫が2基設置されていた。(写真5)

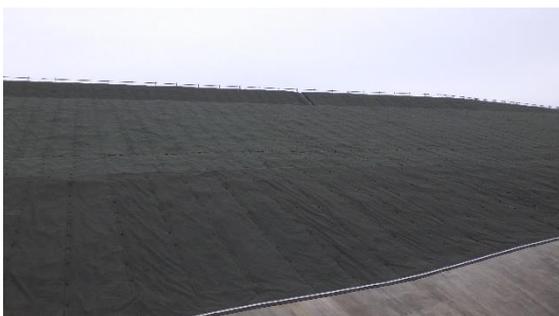
※1 東京電力では、保管槽の内部温度が60℃未満であることを週1回（6～9月の夏季期間は週3回）確認している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
西側法面の防草シート敷設状況



(写真1-2)
南側法面の防草シート敷設状況



(写真1-3)
防草シート固定作業の様子
(東側法面)



(写真1-4)

進入路西側法面の防草シート敷設作業の様子（赤囲みが防草シート未敷設箇所）



(写真2)

排水溝の状況



(写真3)

保管槽の状況



(写真4)

温度計の設置状況

(左：26.2℃、右：25.8℃)



(写真5)
消火器設置状況

(2) 危険物屋外貯蔵タンクの状況について

令和5年5月22日に、危険物屋外貯蔵タンクのNo.1電気絶縁油タンクのブリーザ部^{※2}からPCB含有絶縁油が漏えいした。

漏えいした絶縁油は、堰内に留まっており、堰外への流出はなく、吸着マットによる漏えいした絶縁油の回収、ブリーザ部の絶縁油の抜き取り等の対応が実施されたことから、その後の状況について確認した。(図1)

(写真6)

- ・調査当日は、漏えいのあったタンク以外のタンクについて、油面確認等の点検が行われていた。
- ・堰内に油膜は見られず、漏えいした絶縁油が回収されていることを確認した。(写真7)

※2 タンク内の空気・圧力を放出する通気孔



(写真6)
漏えい箇所のブリーザ部。
(写真のタンクは、漏えいのあったタンクとは異なる。)



(写真7)
漏えいしたNo.1電気絶縁油タンク及び堰内の状況

(3) 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）の状況

使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）では、KURION用ボックスカルバート^{※3}撤去跡に、HIC用ボックスカルバートの増設作業が行われたことから、状況を確認した。（図1）（前回確認日：令和4年10月18日）

- ・HIC用ボックスカルバートが設置され、HIC格納作業が行われていた。（写真8）

※3 ボックスカルバート：鉄筋コンクリート製の箱型構造体であり、使用済セシウム吸着塔やHICから発生する放射線を遮へいしつつ安全に一時保管するために使われている。



(写真8-1)

第三施設南側の状況
前回(令和4年10月18日)南東側
から撮影



(写真8-2)

第三施設南側の状況
今回(令和5年5月26日)南東側
から撮影

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。